

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（5月31日現在）

■ 耕種概要等

- ① 品 種 はれわたり
- ② 圃場造成 秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理 種子消毒後に浸種、キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機 V溝播種機
- ⑤ 播種日 4月24日
- ⑥ 播種量 乾粃 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量 窒素成分 10kg/10a 程度（LP100）
- ⑧ 雑草防除 4月23日ラウンドアップマックスロード
（畦畔際の雑草発生量が多かった部分のみ）
5月12日ノミニー液剤
5月31日プライオリティジャンボ

■ 生育状況

5月20日頃から入水を開始しました。苗立ち数は㎡当たり 250～300 本と十分な本数を確保しています。イネの葉齢は 2.5～3.0 葉程度で、5月12日に散布したノミニー液剤の軽微な薬害（黄化症状）が見られましたが、生育には特に支障がないと考えられます。

5月31日には除草剤を散布するのに十分な湛水深（8～10cm 程度）を確保できたため、一発処理剤（プライオリティジャンボ）を散布しました。



圃場全体の湛水深は8～10cm



イネの葉齢は 2.5～3.0 葉程度



一発処理剤を散布



拡散するジャンボ剤

■ 栽培管理のポイント

入水は選択性茎葉処理除草剤を散布して3日目以降から少量ずつ行い、徐々に入水量を多くして湛水状態にします。

そして、選択性茎葉処理除草剤散布の7～10日後頃に十分な湛水深を確保してから一発除草剤を散布します。

一発処理剤散布後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しを行わないようにします。早い時期に田面が露出してしまうと除草効果が十分に発揮されなくなるので注意しましょう。

散布後7日以降は雑草の再発生をできるだけ抑えるため、少し深めの5～6cmの水深で管理してください

農薬を使用するときは、必ず最新の農薬登録情報を入手して、直播栽培に登録があることを確認してください。